

教育に関する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価の結果報告書
(平成27年度実績)

平成28年12月

平生町教育委員会

<目 次>

	P
はじめに	1
学校教育	
主要な施策の成果	4
学校施設耐震化事業	8
学校施設整備事業	10
学力向上推進事業	12
学校支援員・学校司書派遣事業	14
コミュニティ・スクール推進事業	16
生徒指導環境整備事業	18
佐賀小学校小規模特認校事業	20
社会教育	
主要な施策の成果	22
第23回世界スカウトジャンボリー地域プログラム事業	27
土手町南蛮樋基礎木材保存事業	29
人権教育総合推進地域事業	31
未来を担う平生っ子の育成促進事業	33
図書館まつり事業	35
スポーツ推進事業(町内駅伝競走大会)	37
少年スポーツ教室事業	39

【はじめに】

1 趣旨

平成27年度に行われた教育委員会制度改革では、地方公共団体の長と教育委員会が教育政策の方向性を共有することなどを目的に協議・調整を行う「総合教育会議」の設置と、地方公共団体の長による「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」の策定が義務付けられるなど、教育委員会制度において大きな動きがありました。本町においても「平生町総合教育会議」が開催され、町長による「平生町教育振興基本計画」が策定されました。

そのような中、本町教育委員会では、第四次平生町総合計画において、「みんなの笑顔が輝くまち」という基本目標のもと、子どもたちの笑顔が輝くまちづくり、生きがいに満ちたまちづくりの基本政策により、学校や地域において具体的な事務事業に取り組んでまいりました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の規定により、全ての教育委員会は、効果的な教育行政を推進するために毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、住民への説明責任を果たすことが求められており、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

そこで、本町教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政を推進するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、平成27年度の事務事業について、点検・評価を実施し、報告書にまとめました。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象及び期間

点検・評価の対象は、「平成27年度平生町の教育」基本方針の努力点及び「平成27年度各課の基本的な考え方」の重点事項、その他の主要な事業を対象としました。

点検・評価の対象期間は平成27年4月から平成28年3月までの事業です。

3 点検・評価の方法

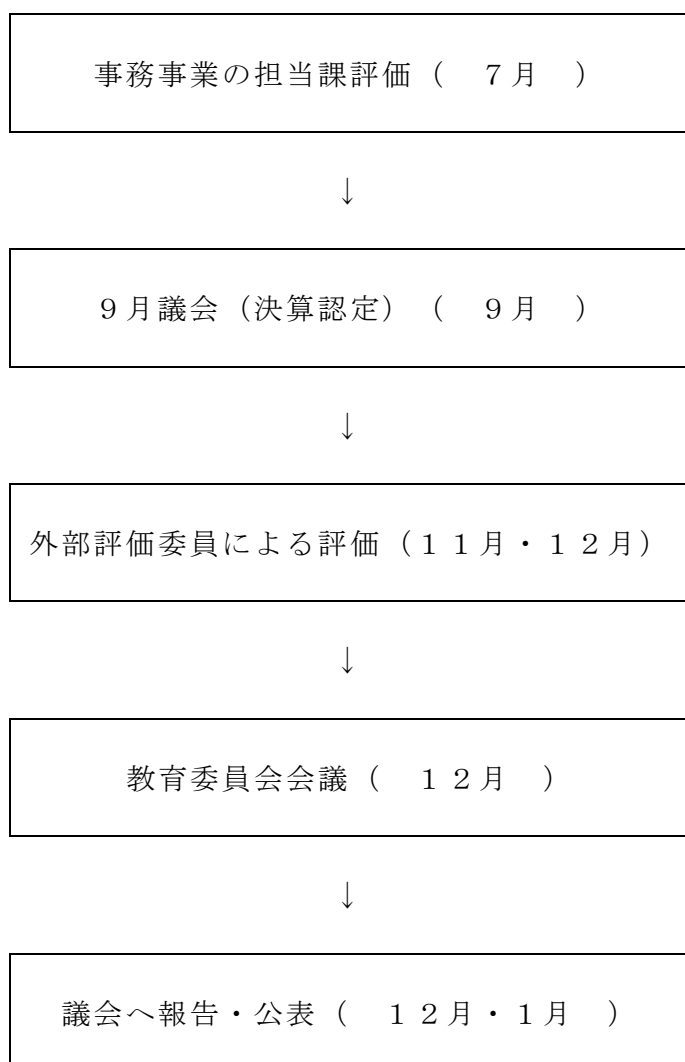
今年度は、評価の4年目となり、従来の自己評価と併せ、昨年に引き続き外部評価を実施しました。

法第26条第2項の規定による教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、教育委員会事務局が実施した自己評価による点検・評価の結果について、「平生町教育行政評価委員会」を設置し、下記の3名の委員から所見等をいただきました。

(敬称略)

氏 名	所 属 等
清 時 学	光輝病院事務次長
中 田 政 明	ひらお保育園長
福 山 圭 子	平生町小・中合同学校運営協議会長

4 実施フロー



5 まとめ

教育委員会の所管する事務の点検・評価については、平成25年度から教育委員会独自の自己評価（内部評価）により開始し、外部評価委員（教育行政評価委員）による対象事務事業の成果等の点検・評価は3年目を迎えました。

平成27年度の学校教育の基本方針「未来を拓く たくましい『平生っ子』の育成」に基づき、学力の向上や特別支援教育の充実、幼・小・中の連携強化、キャリア教育の充実、コミュニティ・スクール事業の推進、学校支援ボランティアの活用をはじめとしたソフト事業の充実と学校施設の耐震化や改修など安全・安心な教育環境の整備を柱とし、事務事業を推進しました。

社会教育の基本方針は「学校・家庭・地域がつながる生涯学習の推進と学習成果活用の促進」とし、青少年健全育成活動、生涯学習、子ども会活動、人権教育、文化活動の推進、読書に親しむ環境づくり、生涯スポーツの推進に努めました。

また、平成27年4月から新教育委員会制度が施行されたことを受け、総合教育会議を設置しました。その会議において、本町の教育の大綱に代わるものとして、教育振興基本計画の策定について協議を行い、同年6月に策定しました。

評価対象事業については、新規事業を加えるなど、対象事業の整理を行い、学校教育、社会教育合わせて14事業としました。

今回、学校教育及び社会教育の主要な14事業について、まず、事業の必要性、有効性、経済・効率性、目標達成度の視点でもって、内部評価を行いました。

各事業は目標どおり、あるいはほぼ目標どおりに進捗しているという評価をし、この内部評価をベースに教育行政評価委員による評価が行われました。

教育行政評価委員からは、個別事業について、それぞれ意見が出されました。また、教育行政全般については、次のような意見が出されました。

- ・子どもたちの育ち、学びに関する様々な取組が行われており、子どもたちが大切にされている様子がうかがえる。これらの取組により本町への定住が進むなど本町の活性化につながるよう、町内外に積極的に情報発信してほしい。
そして、地域の皆さんにも関心を持っていただき、さらに盛り上げていただきたい。
- ・教育は人づくり、まちづくりも基礎となるものは人づくりである。学校・家庭・地域がつながる生涯学習の活性化が人づくりに、さらにまちづくりにつながるものである。生涯学習で身に付けた学習成果を地域活動に活用する「生涯学習のまちづくり」と、行政と地域が連携、協働して進める「参加と協働のまちづくり」を一体的に推進してほしい。

個別事業に対する委員の意見を踏まえながら、上記の全般的な意見を次年度以降の施策に反映させていきたいと思っております。

学 校 教 育

学校教育

基本方針『 未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成 』

学力の向上、生きる力の育成

・町独自の**標準学力調査**は、小3 から小6、中1、2 年生を対象に、全国学力・学習状況調査や県の学力定着確認問題調査の実施時期を考慮して、3 学期に実施した。年間を通して、児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく分析し、成績の経年変化を把握し、情報を共有化することにより、児童生徒への指導や学習状況の改善等に役立て、学力の向上につなげていくことができた。

・**スクールソーシャルワーカー（SSW）**設置事業の取組みについては、課題のある家庭への迅速かつ適切な支援に資するため、専門相談を行い、個の実情に応じた指導・助言を行った。また、新規事業として、平成27 年6 月から毎月第3 火曜日に、スクールソーシャルワーカーによる「**教育相談会**」を開催し、教育相談及び就学相談を行った。

・不登校やいじめ防止、あたたかな人間関係づくりのためのアンケート「**QU、ハイパーQU**」についても、小5、6、中1 から中3 年生を対象に引き続き実施した。不登校やいじめなどの予防対策に活用するものである。

・**学校支援員**については、26 年度に引き続き、平生小に8 人、佐賀小に1 人、平生中に2人の計11 人を配置した。学習習慣の定着や個別指導の充実など、確かな学力の向上を目指したきめ細かな指導や学校生活への適応など生徒指導上の諸課題への対応など、保護者や学校から高い評価を受けている。

また、学校図書館の充実を図るため、図書館司書の資格所持者を**学校司書**として小中3 校で2 人引き続き配置した。司書教諭の補助的な役割を担ってもらうとともに、児童生徒と本をつなぐ役割も担っている。

・特別支援教育として、平生小及び平生中において、**特別支援学級**を設置し、個に応じたきめ細かな配慮を行った。

・キャリア教育推進事業では、平生中学校において「**ふるさとの先輩から学ぶ講演会**」として、6 月に数理科学の専門家である大学教授による講演会を平生中において開催した。子どもたちがふるさとに誇りと愛着を持ちながら、夢や目標をもち、一人の社会人

として自立できるよう意欲や態度、能力の育成を図ることができた。また、キャリア教育講演会をはじめ、ふるさと体験学習など地域との連携による取組みが評価され、**キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰**を受賞した。

・**幼保小中の連携**については、連絡協議会の開催や入学の際の子どもに関する情報交換、授業参観などを実施し、引き続き連携を図ることができた。

幼小連携として、小学生と幼稚園児が相互訪問し、交流を図った。また、小学6年生が幼稚園児と一緒に避難する、幼小合同避難訓練を実施した。

小中連携として、町内の全教職員が参加して合同の研修会を開催し、学力向上や授業改善について協議をするとともに、中学校教員による小学校での出前授業を実施することで、資質の向上、授業力の向上に資することができた。

小小連携についても、両校児童の交流により、中学へスムーズにつなげるよう取組みを引き続き行う必要がある。

・佐賀地区の子どもの減少を受け、**佐賀小学校**において、**複式学級**が2学級（2、3年・4、5年）設置された。児童及び保護者の複式学級に対する不安を払拭するため、県雇用の補助教員を1名配置したほか、町雇用の補助教員を1名配置し、主要教科の授業は極力複式学級を解体して行うなど、きめ細かな配慮を行った。

・**佐賀小学校**を**小規模特認校**として指定し、一定の条件のもとに平生小学校区からの入学を認め、児童を受け入れる制度を設けた。一定の成果があったと判断される。

安全・安心な教育環境の整備

・佐賀小において、トイレの改修や体育館水銀灯落下防止工事を行ったほか、平生小においては、第3校舎入口扉の改修や体育館水銀灯落下防止工事、平生中においては、1階トイレの改修や高圧電気設備の改修工事を行った。また、幼稚園においては、年中組トイレ改修工事を行った。

・**学校施設の耐震化**については、平生小の特別教室棟（第2校舎東側）及び平生中の特別・管理教室棟の耐震補強工事を実施した。これにより、学校施設の平成27年度末の耐震化率は、**100%**となった。今後は、校舎の老朽化が進んでいる状況に鑑み、年次的な整備計画を策定し、順次整備する必要がある。

・**遊具点検**については、多くの園児や児童が毎日使用する遊具であり、幼稚園、小学校において専門業者による点検を引き続き実施した。

家庭・学校がつながり信頼される学校の創造

・町内小中3校においては、**コミュニティ・スクール**を立ち上げ、地域と連携した特色ある学校づくりを推進した。

3校の情報提供、情報交換をはじめ、教育委員会からの情報提供を行うため、**小中合同の学校運営協議会**を設置した。平成27年7月、28年2月に会議を開催し、各校の情報提供、情報交換のほか、3校が連携を取りながら、学校と地域が一体となった取組みを進めていくことを確認した。

また、幼稚園においても、地域の支援ボランティアによる活動が活発となっており、地域と幼稚園が連携して子どもたちを育成していく体制づくりが進んでいる。

・継続事業として、私立幼稚園に就園している保護者への**幼稚園就園奨励費**、小中学生のいる家庭で学用品費、給食費、修学旅行費用などに対して一部助成をする**就学援助費**、児童は片道2キロ、生徒は片道6キロ以上を対象にした遠距離通学者のための**遠距離通学費**など、保護者の経済的負担を軽減するための助成事業を引き続き実施した。これらは、教育の機会均等、義務教育の円滑な推進を図るための重要な事業である。

・外部評価委員3名による**教育行政評価委員会**において、各種事務事業の点検・評価を行ったところであるが、その点検報告においても、これらの事業継続の必要性の判断がなされている。

新教育委員会制度の施行

・平成27年4月から、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正を受け、新教育委員会制度が施行された。教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化を図るとともに、地方に対する国の関与の見直しを図ることを目的としているものである。新制度において、すべての地方公共団体に「**総合教育会議**」を設置するとしてを受け、27年4月、6月に総合教育会議を開催し、平生町教育振興基本計画の策定について協議を行った。

・教育に関する「大綱」を首長が策定するとしてを受け、27年6月に教育の大綱に代わるものとして、「**平生町教育振興基本計画**」をパブリックコメントを経て策定した。

- ・教育委員長と教育長を一本化した新「**教育長**」の設置については、経過措置を適用し、旧制度における教育長が在任した。

平成27年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます		
事業名	学校施設耐震化事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input checked="" type="checkbox"/> 法令等 <input type="checkbox"/> 単独
事業の目的	学校施設の耐震化を促進し、児童・生徒の安全を確保する。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震補強工事 平生小学校特別教室棟(第2校舎) 耐震補強工事 平生中学校管理・特別教室棟 耐震補強工事 ・工事監理業務委託 平生小学校特別教室棟(第2校舎)耐震補強工事に伴う工事監理業務委託 平生中学校管理特別教室棟耐震補強工事に伴う工事監理業務委託 		
事業の対象	平生小学校、平生中学校		
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費(決算額)	38,013 千円	67,503 千円	60,000 千円
決算額に占める 特定財源額	35,690 千円	66,573 千円	46,367 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	<input type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり B ほぼ目標どおり D 目標を大幅に下まわる

判定説明考察	<p>本町の小・中3校全体の校舎の数は14棟であり、平成27年度に耐震化の必要な校舎(平生小学校特別教室棟(第2校舎)及び平生中学校管理・特別教室棟)について耐震補強工事を実施し、その結果、本町の学校施設耐震化率は平成27年度末で、100%を達成した。 今後は、老朽化が進んでいる学校施設の長寿命化のための改修工事等が必要となってくる。</p>
事業の方向性	<p> <input type="checkbox"/>さらに重点化する <input type="checkbox"/>現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了 </p>

外部評価	A	評価委員意見	<p>今後は、子どもたちの学習環境の安全確保に向け、学校施設の改修に早めに着手してほしい。</p>
------	---	--------	---

平成27年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます		
事業名	学校施設整備事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	学校施設は、子どもたちの学習・生活の場であり、学校教育活動を行うための施設であることから、必要十分な教育活動が行える機能や環境整備を整えるとともに、防犯・防災性を備えた安全・安心で衛生的な施設の確保を図る。		
事業の内容	<input type="checkbox"/> 工事 ・平生幼稚園幼児用トイレ改修工事 ・佐賀小学校体育館水銀灯落下防止工事 ・佐賀小学校トイレ改修工事 ・平生小学校第3校舎入口扉改修工事 ・平生小学校体育館水銀灯落下防止工事 ・平生中学校普通教室棟1階トイレ改修工事 ・平生中学校高圧受電開閉器改修工事 ・平生中学校給食室照明改修工事 ・平生中学校特別教室給水管改修工事 <input type="checkbox"/> 修繕 ・各小中学校及び幼稚園において、老朽箇所、破損箇所等の修繕		
事業の対象	幼稚園、小学校、中学校		
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費(決算額)	21,947 千円	22,003 千円	17,262 千円
決算額に占める特定財源額	5,000 千円	12,200 千円	6,400 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	<input type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない	
内部評価	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

<p>判定説明考察</p>	<p>校舎の老朽化が進み、改修工事、修繕の必要な箇所が増えている中、年次的に工事・修繕を実施することにより学習環境等の安全を確保している。 平生幼稚園幼児用トイレ改修、平成26年度に引き続き佐賀小学校においてトイレ改修工事を実施した。また、佐賀小及び平生小において、安全面確保の観点から体育館水銀灯落下防止工事を実施した。 平生中学校においては、平成26年度に引き続き普通教室棟トイレの洋式化や特別教室棟給水管改修工事を実施した。 今後は、中長期的な視点から財政負担の軽減を考慮しながら、計画的に時代のニーズに適した教育環境の質的向上を図る必要がある。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p> <input type="checkbox"/>さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了 </p>

<p>外部評価</p>	<p>A</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>快適で安全な学習環境の整備、特に健康面、衛生面を重点として取り組んでほしい。</p>
-------------	----------	---------------	---

平成27年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	幼・小・中の連携を重視し、確かな「生きる力」を育てます		
事業名	学力向上推進事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	学力向上を図るために、児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することに努め、課題解決に向けて、学校と家庭・地域等が一体となった取組を推進する。		
事業の内容	<p>・標準学力調査 22年度から実施。児童生徒の学習到達度を評価する。個人成績、学校用の資料提供を受ける。26年度から小学6年生を加えて実施。 <対象学年、教科> ○小学3年生 国語、算数 ○小学4年生 国語、算数 ○小学5年生 国語、算数、理科 ○小学6年生 国語、算数 ○中学1年生 国語、数学 ○中学2年生 国語、数学、理科</p> <p>・家庭学習啓発パンフレット「家庭学習のススメ」作成・配布 家庭学習のポイントを学年別に記載し、確かな学力育成のために、学校と家庭が連携し取り組むための指針として作成。(毎年度、新1年生分を作成・配布)</p> <p>・生活習慣啓発パンフレット「生きる力を育む生活づくり」作成・配布 家庭教育5つのポイントとして、「基本的な生活習慣を身につけましょう」「ルールを守りマナーを身につけましょう」「家族でのふれあいを大切にしましょう」「家庭での学習習慣を身につけましょう」「地域でいろいろな体験活動をしましょう」を明記したものを作成。(毎年度、新1年生分を作成・配布)</p>		
事業の対象	児童生徒およびその保護者		
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費(決算額)	407 千円	438 千円	463 千円
決算額に占める特定財源額	- 千円	- 千円	- 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	<input type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下回る B ほぼ目標どおり

<p>判定説明考察</p>	<p>・標準学力調査 小学校6年生と中学校3年生を対象に実施される全国学力・学習状況調査や県の確認問題等と併せて、児童生徒一人ひとりの学力の定着状況を継続的に把握することができる。また、児童生徒の学力定着状況をもとに、課題となっているものを分析し、教員の授業改善や家庭と連携した学力向上の取組に生かすことができた。</p> <p>・家庭学習啓発パンフレット「家庭学習のススメ」作成・配布 100部作成。小学校新1年生に配布。家庭学習を進める上でのエッセンスが詰まっている。各学校ではこれを基に、より具体的に家庭学習の進め方について指導し、学力の向上に努めた。</p> <p>・生活習慣啓発パンフレット「生きる力を育む生活づくり」作成・配布 小学校新1年生に配布。家族みんなで家庭教育の在り方を振り返り、共通認識の上に立って家庭生活の充実につながっている。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する</p> <p><input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了</p>

<p>外部評価</p>	<p>A</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>家庭向けパンフレットの有効活用と併せ、保護者が子どもの手本となれるよう家庭教育の充実に努めてほしい。</p>
-------------	----------	---------------	---

平成27年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます		
事業名	学校支援員・学校司書派遣事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	児童・生徒の個の特性に応じたきめ細かな対応を行う。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生対応 (平生小4名配置)(1日4時間または5時間、週3～5日、時給820円) 落ち着いて授業を受けることのできない、また、理解の困難な1年生児童の個別指導 ・特別支援対応 (佐賀小1名、平生小4名、平生中2名配置)(1日5時間、週5日、時給820円) 特別な配慮を必要とする児童生徒への個別指導 ・学校司書(平成26年度 学校支援員から独立) (平生小 1名・佐賀小・平生中兼務 1名 配置)(1日4時間、週5日、時給820円) 図書室管理ソフトへの入力作業、廃棄手続き、本の紹介、本の企画展示など 		
事業の対象	児童・生徒		
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費(決算額)	5,659 千円	7,641 千円	8,706 千円
決算額に占める 特定財源額	- 千円	- 千円	- 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	<input type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

<p>判定説明考察</p>	<p>「一人ひとりの状態に応じたきめ細かな指導を行うことができ、学習習慣の定着に繋がった。個々の特性に応じたきめ細かな配慮ができ、子どもたちとの信頼関係も増してきた」などの声が学校からあがっている。保護者や学校からの高い評価をうけ、要望も強い事業である。 学校全般にわたり校務が多様化、複雑化している中で、教員が児童・生徒と向き合う時間の一層の確保のため、継続して行いたい。</p> <p>司書教諭は配置されているが、あくまでも教諭との兼務であり、授業との関係で図書室に係わる時間が限られているため、学校司書の配置は重要な役割を担っている。 平成26年度から、「学校司書」として学校支援員から独立させ、2名体制で業務を行っているが、1名は平生中学校と佐賀小学校を兼務しており、支援が十分でないことから、さらに拡充したい。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/> 単年度で終了 </p>

<p>外部評価</p>	<p>A</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>個に応じたきめ細かな指導のため、更なる人員の配置を要望する。財政的な支援についても検討してほしい。</p>
-------------	----------	---------------	--

平成27年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	家庭・地域とのつながりを深め、信頼される学校を創ります		
事業名	コミュニティ・スクール推進事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	小学校及び中学校において、地域に元気を与えるような活動、平生町の風土、伝統及び有名無形の財産を活用して郷土理解を深め、郷土への誇りと愛着を育む活動、地域と協働により取り組む活動等、地域に開かれた信頼される学校づくりを進めていく。		
事業の内容	<p>・コミュニティ・スクール推進事業</p> <p>学校運営協議会を設置し、校長の学校運営方針について、議決を得ながら、学校運営を進めていく。運営協議会委員は、有識者、地元代表、保護者代表、学校関係者の中から教育委員会が任命。学校は運営協議会での意見を尊重し、学校運営に生かしていくことで、地域と連携した特色のある学校づくりを推進している。</p> <p>平成20、21年度に平生小が文部科学省の研究指定、22年度から佐賀小、平生小を、24年度から平生中を町指定。コミュニティ・スクール推進事業交付金として上限額を20万円とし、学校の要望に応じ補助する。</p> <p>平成27年4月、小中合同学校運営協議会を設置し、同年7月、28年2月に会議を開催した。各校からの情報提供、情報交換をはじめ、小中合同の取組の協議を行うなど、3校の連携を図る。</p>		
事業の対象	佐賀小学校、平生小学校、平生中学校		
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費(決算額)	350 千円	401 千円	417 千円
決算額に占める特定財源額	- 千円	- 千円	- 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下回る B ほぼ目標どおり

<p>判定説明考察</p>	<p>平生小、佐賀小では、年間、5回の学校運営協議会を開催し、学校、家庭、地域が連携を深め、協力して地域の子どもを育てる体制が定着してきた。 また、本町では地域協育ネット(学校支援地域本部事業と放課後子ども教室)を実施しており、学校支援ボランティアと一体となった取組を進めている。登下校時の見守り、放課後の見守り、学校の環境整備、地域の講師など、地域の活力を生かした取組を行っている。</p> <p>平生中では、年間6回の学校運営協議会を開催し、授業参観や学校・生徒の状況説明、また年2回の授業検討会への学校運営協議会委員の参加などにより、地域のニーズや評価を学校運営に反映させることができ、成果が表れてきている。</p> <p>小中合同学校運営協議会において、各校からの情報提供、情報交換のみならず、小中合同で取り組むべきことの協議を行うなど、地域ぐるみで子どもたちの育ちや学びを支援する質の高い教育支援体制を整備していくこととしている。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する</p> <p><input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了</p>

<p>外部評価</p>	<p>A</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>これまでの取組の振り返りや今後の見通しを踏まえ、継続して重点的に進めてほしい。</p>
-------------	----------	---------------	--

平成27年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	幼・小・中の連携を重視し、確かな「生きる力」を育てます		
事業名	生徒指導環境整備事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input checked="" type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	園・学校間の連携によるつながる子どもの育ちに向けた取組を充実するとともに、学校における生徒指導、教育相談体制を充実させ、児童生徒の心の成長を促す指導を推進する。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中連絡協議会 心豊かでたくましい「平生っ子」の育成をめざして、園・学校関係者により年3回の協議会や公開保育・授業公開により情報交換を実施。 ・小中合同研修会、出前授業 小中9年間を見据えた教育を推進するために、小中学校教員参加の合同研修会や中学校教員の小学校への出前授業を実施。 ・QU、hyper-QU(楽しい学校生活を送るためのアンケート・よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート) 不登校やいじめの未然防止や学校内の人間関係の把握・改善のために、小学5・6年、中学1～3年を対象にアンケート調査を実施。 ・SSW(スクールソーシャルワーカー) 課題のある児童生徒や家庭への支援のために、教育委員会にSSW(スクールソーシャルワーカー)3名を配置。 新たに、月1回定例の教育相談会を開催し、子どもたちや家庭への支援に努めている。 		
事業の対象	佐賀小学校、平生小学校、平生中学校		
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費(決算額)	1,151 千円	1,028 千円	1,250 千円
決算額に占める特定財源額	512 千円	455 千円	516 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下回る
			B ほぼ目標どおり

判定説明考察	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中連絡協議会 園・学校関係者が参加し、取組の成果やそれぞれの課題、子どもたちの状況等について情報交換・協議を深め、幼保小中連携した全町あがての取組となっている。 ・小中合同研修会、出前授業 小中の教員同士の情報交換や課題意識の共有化を図るとともに、小学校高学年の子どもたちが抱える中学校での生活や授業への不安を解消する点でも有効である。 ・QU、hyper-QU(楽しい学校生活を送るためのアンケート・よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート) 担任による学級の子どもたちの人間関係の把握と併せてアンケート調査を実施し客観的な結果を得ることにより、学級経営や授業づくりに生かすことができている。 ・SSW(スクールソーシャルワーカー) 教育委員会に3名配置し、課題のある児童生徒や家庭への支援のために、社会福祉士という専門的な立場からの助言や家庭支援のための具体的な働きかけにより、成果をあげている。 教育相談会での相談により、家庭支援につながる動きも出てきており、さらなる制度の周知に努めていきたい。
事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/> 単年度で終了

外部評価	A	評価委員意見	これまでの取組が効果的に活用されているか検証の上、学校、家庭と連携した取組を進めてほしい。
------	---	--------	---

平成27年度事業 評価シート

(課名) 学校教育課

学校教育の基本方針	未来を拓く たくましい「平生っ子」の育成		
努力点	安全・安心な教育環境を保障し、学校・地域を愛する心を育てます		
事業名	佐賀小学校小規模特認校事業（新規）		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	特色ある教育活動を行う小規模な学校(佐賀小学校)の一層の活性化を図ることと併せ、佐賀地区の活性化を図る。		
事業の内容	<p>小規模校の特性を生かした教育活動を推進している小学校で学びたい、子どもを学ばせたいという希望者に対して、一定の条件のもとに通学区域外からの入学を認め、児童を受け入れる。</p> <p>①就学を希望する児童(就学前を含む)が町内在住または就学時期までに町内に転入する見込みであること。 ②保護者の負担(バス通学費の一部助成あり)及び責任において、児童を通学させることが可能なこと。 ③保護者が小規模特認校の教育活動等に賛同し、協力できること。 ④原則小学校卒業まで在籍すること。</p>		
事業の対象	佐賀小学校		
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費(決算額)	- 千円	- 千円	10 千円
決算額に占める特定財源額	- 千円	- 千円	- 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分寄与する	<input type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

<p>判定説明考察</p>	<p>佐賀地区の活性化のためには、小学校の存続が大きな課題である。 佐賀小学校を地域コミュニティの核として位置付け、地域を挙げて学校を盛り上げるとともに、児童の確保に向けた取組も強化しなければならない。 平成27年度に小規模特認校制度を設け、2回の制度説明会やオープンスクール(学校公開)を開催し、児童の募集を行ったところ、6名の応募があり、それぞれ就学を許可したところである。 今後、様々な媒体を活用して、小規模特認校制度の周知を図っていきたい。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p> <input type="checkbox"/>さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了 </p>

<p>外部評価</p>	<p>A</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>佐賀小の魅力、平生町の良さを町外に情報発信し、この制度が平生町の発展につながるよう継続して取り組んでほしい。</p>
-------------	----------	---------------	---

社 会 教 育

社会教育

基本方針『 学校・家庭・地域がつながる生涯学習の推進と学習成果活用の促進 』

青少年健全育成活動の推進

・ 山口市「きらら浜」において、155の国と地域から3万3千人以上が参加して**第23回世界スカウトジャンボリー**が開催された。期間中に県内各市町を分かれて訪問する「**地域プログラム**」が行われ、世界のスカウトたち120人が平成27年7月31日に平生町を訪れた。スカウトは午前中に町内小・中学校で児童生徒と交流した後、町武道館で歓迎セレモニーに参加した。その後は、町保健センターでのお菓子づくり、阿多田交流館での平和学習、熊毛南高校での学校訪問の3班に分かれて活動し、児童生徒だけでなく、多くの町民とも交流を深めることができた。

・ 地区の青少年の健全な育成を図ることを目的として24年度から実施している「**未来を担う平生っ子育成促進事業**」では、27年度も全7地区から申請があり、どんど焼きやもちつき、ケーキづくりなどを通して、地域ぐるみで三世代交流が図られた。また、まち・むら・堅ヶ浜の3地区では、27年度の行事も合同開催とし、地区の枠を超えた交流を行った。

・ 26年度に引き続き、**町子ども会**により**平生町文化財マップ作り**を実施した。町内の歴史や文化について学ぶと共に、地域の有識者とも交流が図られ、さらに郷土愛を深めることができた。

・ 26年度から実施している「**立志の集い**」を平生中学校体育館にて開催した。27年度から平生町青少年育成町民会議と平生町教育委員会、平生中学校の共催により実施し、新たに14歳を迎える中学2年生を地域と家庭、学校が連携してお祝いした。前向きで意欲的な誓いも多く見られ、これからの平生町を担う生徒たちが頼もしさを感じさせてくれた。

生涯学習の推進

・ 生涯学習の推進については、**町民憲章の第3項「思いやりと感謝の心もち 温かいまちをつくります」**の具現化に向けて、取組みを展開した。27年度も**啓発ポスターや標語募集**を行い、ポスターについては63点、標語については476点もの応募があった。ま

た、花いっぱい運動の優秀団体とともに、生涯学習表彰式において表彰した。

・27年度は平生町制施行60周年記念式典が秋の文化行事初日に同日開催された。**町子ども会**による記念行事として「**60mの長〜い巻きずしづくり**」に挑戦した。子どもたちが文化行事・式典の参加者とともに平生の「ひ」をかたどった60m巻きずしを完成させ行事を大いに盛り上げた。

・**生涯学習まちづくり出前講座**については、各小学校や地域の団体から多くの申し込みがあり、延べ31団体、665人が受講した。また、広報の生涯学習推進だよりコーナーへの掲載等により、生涯学習の意識の高揚を図った。

人権教育の推進

・平成25年度からの継続事業として、「互いに認め合い、共に高め合う人権教育の推進」を図るため、「**人権教育総合推進地域事業**」に26年度に引き続き取り組んだ。事業では26年度に引き続き平生っ子アンケートを実施し、幼児や児童生徒の現状や課題を洗い出すとともに、比較分析を行った。また、幼稚園、各小・中学校、事業の委員となっている各種団体の代表者とともに、これまでの取組みを、実践例として取りまとめ、事業の成果となる研究収録を作成した。

・27年度も、おおいた観光特使の矢野大和さんを迎え、**平生町人権講演会**を実施した。「笑って元気」と題した口演（こうえん）は、身近にある人権について、楽しくわかりやすい説明により、参加者の人権意識の高揚を図ることができた。27年度は3年間の継続事業の最終年となり、主に事業のまとめに取り組む年度となった。

・継続事業として、人権教育総合推進地域事業の位置づけで、**人権学習講座**を開催し、3日間で延べ97人の受講があった。また地域住民に「人権」をより身近に感じてもらうために、**人権コラム**「つながり めくもり」を毎月「広報ひらお」へ掲載すると共に、関係者が人権学習講座や人権講演会、各種研修会に参加することにより、人権教育の推進に必要となる知識と能力の向上を図った。

文化活動の推進

・県による土手町南蛮樋移築復元事業に伴い出土した**南蛮樋基礎部木材**について、**PEG法による保存処理**を平成27・28年度の2か年の継続事業で実施している。また、文化財の活用を推進するため、文化財説明看板の修繕を行うと共に、文化財周辺の草刈り等

を定期的に実施し、景観維持に努めた。

・昭和41年から取り組んでいる「平生町音楽鑑賞会」が27年度で50回となり、これを記念して「由紀さおり・安田祥子」さんを迎えて童謡コンサートを開催した。当日は、入場者数も過去最高となる1,000人を超える来場があり、二人の素晴らしいハーモニーにより、子どもたちと来場者は大変有意義なひと時を過ごすことができた。

社会教育施設の整備

・快適な学習環境の推進を図るため、勤労青少年ホームのトレーニングルーム、中央公民館第一研修室和室、宇佐木コミュニティセンターふれあいの館、音楽道場において、エアコン改修を行った。また、中央公民館3階、堅ヶ浜コミュニティセンターにおいて畳の表替えを行い、利用環境の改善を図った。

さらに、大野公民館において、下水道の排水設備工事を行い衛生面の改善を図った。

読書活動の推進

・地域に親しまれる図書館を目指し、町制施行60周年記念の年を契機として、「ひらお図書館まつり」を新たに開催した。内容としては、「リサイクルコーナー」「折り紙コーナー」「紙芝居」、そして「親子で楽しむ絵本講座」を組み入れて実施し、多くの町民が訪れ楽しまれた。

・子どもの読書活動の推進については、引き続き「第二次平生町子ども読書活動推進計画」の施策に沿って、子どもたちが、自主的に読書習慣を身に付け、生涯にわたって本と親しむことができる環境づくりの推進に努めた。

・継続事業として、読み聞かせ技術の向上を図ることを目的に「絵本読み聞かせ講座」を、また、幼児期の読み聞かせの大切さの意識啓発を目的に平生幼稚園及び図書館で「親子で楽しむ絵本講座」を開催し、参加された保護者から好評を得た。

ボランティア団体「平生町おはなし会」の活動支援を行い、活動内容の充実を図ることができた。「夏休み子ども移動図書館」及び「こども文庫」も継続して開催し、夏休み期間中の読書環境の充実に努めた。年間を通して実施している、幼・保・小学校等への配本・回収は、2,000冊以上を数え、拡大・充実を図っている。

館内の展示コーナーや掲示板・広報などで、話題の本や新着本の紹介を行い、読書に対する興味や関心を高めることに努めた。図書館に来館することが困難な人に対して本を提供している「一般向け移動図書館」も、徐々にリクエストが増えるなど、利用者の

利便性の向上を図ることができた。

図書館ホームページは、年間25万件程度のアクセスがあり、また300件以上のインターネット予約があるなど、利用者へのサービス向上が図られた。

歴史民俗資料館について

・平生町歴史民俗資料館では、町内の遺跡や古墳からの出土品及び絵画や掛け軸など文化財を保管・展示した。また、**特別展示**では、従来実施している「水墨画展」等に加え、「小林東五展」や「久保白船展」などを開催し、郷土で活躍した方々を紹介することにより地域文化の向上に努めた。

・平成28年3月には、「維新の先覚者 月性 ～月性が生きた時代～」と題して**歴史講座**を開催し、郷土の歴史について理解を深めることができた。

阿多田交流館について

・阿多田交流館は、当時を偲ばれるこの地に平成16年に開館し、平和教育の学習の場や、地域交流の場として活用されており、27年度約5,100人の来場があった。

また、第23回世界スカウトジャンボリーでの「地域プログラム」では、交流館において、日本と海外のスカウトたちに平和学習プログラムを実施し、未来を担う世界のスカウトたちに「平和の大切さ」を知ってもらうことができた。

生涯スポーツの推進

・平成25年度策定した「平生町スポーツ推進計画」の2年目を迎え、その計画の基本施策として、健康及び体力の保持増進のためにラジオ体操の普及啓発を掲げており、曾根・佐賀・大野地区に続き平生まち・むらコミュニティ協議会の主催でまち・むら地区でも「**ラジオ体操会**」が開催された。健康・体力づくりの意識と実践意欲の高揚を図り、生涯スポーツを推進するため**ファミリースポーツ・レクリエーション大会**や各種スポーツ大会を開催した。「**平生町駅伝競走大会**」については、27年度から雨天決行になり、中継所の位置を一部変更して4年ぶりに開催することができた。

・山口国体の地元開催競技等の推進を図り、地域の活性化につなげるため、「する・観る・支える」スポーツ人口拡大に向けた市町の取組みに対して支援することを目的とした「**地域スポーツ人口拡大推進事業**」が始まった。本町では、元プロサッカー選手を講師に迎え、**少年サッカー教室**を開催し、交流や技術習得、スポーツを通した子どもたち

の健全育成を図った。

・27年度は、平生町制施行60周年記念行事として子どもたちに夢と希望を与え、高い技術の習得や将来に亘ってスポーツを続ける気持ちを支援することを目的に、プロバスケットボールクラブチームの選手を講師に迎え、「少年バスケットボール教室」を実施した。これは、25年度から県体育協会の補助事業として始まった「スポーツ少年団活性化事業」を一部活用したものであり、スポーツ少年団活動の活性化に向けた2団体の取組みとなった。

平成27年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	青少年健全育成活動を推進します		
事業名	第23回世界スカウトジャンボリー地域プログラム事業 (新規)		
区分	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度	<input type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	<p>「世界スカウトジャンボリー」は4年に一度開かれるボーイスカウトの世界最大の祭典で、第23回大会が7月28日(火)から8月8日(土)までの間、山口市阿知須・きらら浜で開催。</p> <p>大会期間中、世界中から集まったスカウトが県内各市町を訪問する「地域プログラム」において、平生町の魅力を国内外に情報発信するとともに、住民とスカウト達との交流を通じて、地域の活性化や交流を図る。</p>		
事業の内容	<p>平成27年7月31日(金)に平生町において、地域プログラムを実施する。</p> <p>町の歓迎セレモニーとして、平生しぶき太鼓「しぶきっ子」の演奏や、藤光会の舞踊を披露する。</p> <p>町内各小・中・高等学校では児童生徒とスカウト達による交流プログラムが実施され、各校での歓迎行事のほか、日本の伝統文化(もちつき、折り紙、生け花等)を取り入れた交流を行う。</p> <p>また、阿多田交流館での平和学習や、食生活推進協議会委員の指導によるフルーツポンチなどのお菓子づくりを通して、スカウト達と交流を図る。</p>		
事業の対象	町内小・中・高等学校児童生徒及び町民		
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費(決算額)	- 千円	- 千円	725 千円
決算額に占める特定財源額	- 千円	- 千円	725 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

判定説明考察	<p>平生町にはオランダ、ナイジェリア、イギリス、アメリカのスカウト達120名が平生町を訪れた。多様な地域プログラムにより、各小・中・高校の生徒だけでなく、多くの町民のみなさんも、世界のスカウト達と国際交流を深めることができた。事業に係る経費等は概ね山口県市町村振興協会からの助成により措置できた。</p>
事業の方向性	<p> <input type="checkbox"/>さらに重点化する <input type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/>単年度で終了 </p>

外部評価	A	評価委員意見	この地域プログラムの成果を今後に生かせるよう、また国際交流、国際理解を進める事業については、積極的に関わって、取り組んでほしい。
------	---	--------	--

平成27年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	文化活動を推進します		
事業名	土手町南蛮樋基礎木材保存事業（新規）		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input checked="" type="checkbox"/> 法令等 <input type="checkbox"/> 単独
事業の目的	土手町南蛮樋の移築に伴う樋門の解体工事の際、樋門の基礎部材が掘り出され、建設当時の部材ではないものの、貴重な文化財であるため、保存(劣化防止処理)し、資料館への展示により、文化財としての価値を保全する。		
事業の内容	樋門本体背面下梁材をPEG法(恒温層を用いたポリエチレングリコールへの置換)により保存処理し、平生町歴史民俗資料館へ展示する。 平成27・28年度の2か年の継続事業で実施する。		
事業の対象	町民		
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費(決算額)	- 千円	- 千円	1,620 千円
決算額に占める特定財源額	- 千円	- 千円	1620 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる B ほぼ目標どおり

判定説明考察	<p>土手町南蛮樋は慶安四年(1651年)から万治元年(1658年)の間に大野毛利氏の初代、就頼により行われた平生開作の時に造られたと推定されている。</p> <p>県による大内川水系熊川の河川改修工事に伴い、平成24年から土手町南蛮樋の移築復元工事が行われたが、その際掘り出された樋門の基礎部材の一部で、樋門本体下梁に使用されていた貴重な部材を保存処理した。</p> <p>なお、委託料の財源は、県補助金により措置された。</p>
事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/> 単年度で終了

外部評価	A	評価委員意見	<p>移築された土手町南蛮樋と解体工事の際、掘り出された部材は、平生町の歴史を語るものとして適正に管理し後世に伝えてほしい。</p>
------	---	--------	--

平成27年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	人権教育を推進します		
事業名	人権教育総合推進地域事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input checked="" type="checkbox"/> 法令等 <input type="checkbox"/> 単独
事業の目的	<p>「山口県人権推進指針」に示されている「一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会の実現」をめざし、子ども、保護者、教職員、地域の住民が、それぞれ人権の主体者であるという認識のもとに、豊かな関わり合いを通して、互いのよさや違いを認め合い、基本的人権を尊重することの大切さを学び合い、共に高め合っていく。</p>		
事業の内容	<p>研究主題を「人権が尊重された地域づくりをめざす人権教育に関する実践研究～学校、家庭、地域社会の連携による総合的な取組を通して～」と掲げ、主に以下の事業を実施する。 平成25年度から3年間の継続事業として全額国庫補助により実施し、27年度で終了する。</p> <p>実務担当者会議を2回(5月と1月)、総合推進会議を2回(6月と2月)開催し、研究を進めながら成果と課題をまとめていく。 研究を深めるために幼稚園、小・中学校の子どもへのアンケート(平生っ子アンケート)を7月に実施する。 また、町民の研修の場として、人権講演会(講師:矢野大和氏)を12月に開催する。</p>		
事業の対象	町民		
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費(決算額)	800 千円	800 千円	800 千円
決算額に占める特定財源額	800 千円	800 千円	800 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない
目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている		
	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
内部評価	A	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる

<p>判定説明考察</p>	<p>・「学び合いを重視した授業づくり等の推進」によって、人権教育における学校間の学習方法等の共通理解や共有化が進み、子どもの人権意識を向上させることにつながった。 ・「小・中連携事業の推進」によって、教師間の情報交換の体制や人権に関わる研修機会が充実し、教職員の人権意識の向上につながった。 ・「地域・保護者等との連携を図る教育活動の充実」によって、地域の教育力向上への支援体制が整い、地域住民の人権意識の向上につながった。</p> <p>本事業により、人権教育の推進が図れたとともに、園・学校・地域の連携だけでなく、各社会教育団体等においても相互に連携が図れることとなり、人権に関する学びを、広く長く支援するための体制が整備できた。 今後においても、この取組を生かし、一人ひとりを大切にしたい人権教育を推進していきたい。</p>
<p>事業の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>さらに重点化する <input type="checkbox"/>現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する</p> <p><input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/>今年度で終了</p>

<p>外部評価</p>	<p>A</p>	<p>評価委員意見</p>	<p>この事業の成果を生かして、継続して取り組んでほしい。</p>
-------------	----------	---------------	-----------------------------------

平成27年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域が連携した生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	青少年健全育成活動を推進します		
事業名	未来を担う平生っ子の育成促進事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	地域のつながりの希薄化や核家族化が問題となる中、青少年健全育成活動を地域で展開する町民会議地区会議に対して、取り組みを支援することにより、真に心の豊かな平生っ子の育成を図る。		
事業の内容	平成24年度新規事業で、今年度で4年目を迎えた青少年育成町民会議地区会議が実施する活動(スポーツレクリエーション活動、文化・学習活動、その他コミュニティ活動)を活性化するために助成金を交付する。		
事業の対象	青少年健全育成町民会議		
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費(決算額)	73 千円	86 千円	85 千円
決算額に占める特定財源額	- 千円	- 千円	- 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下回る

判定説明考察	<p>平成27年度も全7地区の地区会議から申請があり、事業が実施できた。また、今年度は新たな試みとして、町民会議(本部)での事業を実施した。</p> <p>地区別では、まち地区で凧作り、むら地区はイモの植え付け、宇佐木地区はどんど焼き、堅ヶ浜地区は凧作り、大野地区は餅つき大会、曾根地区はケーキ作り、佐賀地区は餅つき大会、町民会議では、幼稚園において餅つきが実施された。</p> <p>また、今年度も、まち・むら、堅ヶ浜地区会議の行事は合同で開催され、地区の枠を超えた、人材育成と三世代交流が十分行われたと思われる。</p> <p>今年度で4年目を迎え、本事業も徐々に地域に定着している。更なる人とのつながりや枠作りが広がるよう今後も続けていく必要がある。</p>
事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/> 単年度で終了

外部評価	B	評価委員意見	地域の交流の活性化につながっており、今後も継続して取り組んでほしい。
------	----------	--------	------------------------------------

平成27年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域がつながる生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	読書に親しむ環境を整備します		
事業名	ひらお図書館まつり事業 (新規)		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	図書館が、生涯学習や情報センターの拠点として、町民に気軽に活用され、親しまれるようにする。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・開会セレモニー(子どもたちによるくす玉割り) ・本のリサイクルコーナー 町民からの寄贈本など約1,700冊を展示し、希望者に配付する。 ・親子で楽しむ絵本講座 講師 平生町おはなし会の皆さん ・折り紙コーナー 子どもには折り紙の折り方を指導したり、親子連れには折り紙を折ってもらう。 ・紙芝居「忠右衛門さん ありがとう」 3回上演(午前2回 午後1回) 現在の平生平野の干拓、造成工事の中心的役割を果たした横道忠右衛門の話をもとに、平生町観光協会において紙芝居を作ったものを上演する。 		
事業の対象	町民		
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費(決算額)	- 千円	- 千円	40 千円
決算額に占める特定財源額	- 千円	- 千円	- 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる

判定説明考察	<p>町制施行60周年を記念して、平成27年11月1日に開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本のリサイクルコーナー 9時～ 町民からの約1,400冊の寄贈本、図書館の除籍本約300冊、計約1,700冊を展示し、希望者には一人10冊まで配付し、1冊あたり10円程度の募金をお願いした。 集まった募金は、東日本大震災の復興のため、寄付した。 ・親子で楽しむ絵本講座 13時30分～15時 講師の平生町おはなし会の皆さんが、趣向を凝らし、読み聞かせなどを行い、子どもたちへの読み聞かせの重要性の啓発を行った。多くの親子連れが熱心に聴講していた。 ・折り紙コーナー 10時～16時30分 主催者が考えていた以上に人気があり、多くの親子連れなどが図書館の折り紙の本を見ながら、折り紙を楽しんでいた。 ・紙芝居「忠右衛門さん ありがとう」 3回上演(午前2回 午後1回) 平生町観光協会により分かりやすく紙芝居にしたものを上演した。大人、特に高齢者が熱心に見ていた。 <p>来年度以降も、図書館のイベントとして継続して実施したい。</p>
事業の方向性	<p> <input type="checkbox"/>さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/>現状のまま継続する <input type="checkbox"/>見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/>事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/>休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/>単年度で終了 </p>

外部評価	A	評価委員意見	町民から気軽に利用され、親しまれる図書館づくりの取組として継続して行ってほしい。
------	---	--------	--

平成27年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域がつながる生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	生涯スポーツを推進します		
事業名	スポーツ推進事業(町内駅伝競走大会)		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input type="checkbox"/> 法令等 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
事業の目的	スポーツの振興と親睦融和を図り、併せて生涯スポーツ推進の一環として町民のスポーツに対する気運を醸成する。		
事業の内容	平生中央児童館前を出発、佐賀小学校をゴールとする平生町内を走る全コース11.9Kmの駅伝競走大会を実施する。小学生・中学生女子・一般2部・一般女子の部は7区間で、中学生男子・一般1部の部は5区間で行う。 体育協会陸上部とスポーツ推進委員協議会が主管となり、多くのスポーツボランティアの協力で運営されている。		
事業の対象	町内団体(学校、企業、地域)		
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費(決算額)	121 千円	113 千円	503 千円
決算額に占める特定財源額	- 千円	- 千円	- 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる

判定説明考察	<p>参加申請チーム数41チーム(小学校:6チーム、中学校男子:13チーム、中学校女子:7チーム、一般1部:5チーム、一般2部:8チーム、一般女子:2チーム)の申込があり、悪天候により小学生チームが欠場したが、34チームが参加した。</p> <p>駅伝運営には、中継所役員、交通安全指導員、集計担当等多くのスポーツボランティアが必要であるが、近年、高齢化に伴う世代交代のための新たなボランティアの確保に苦慮している。</p> <p>今年度から雨天決行になり、中継所の位置を一部変更して4年ぶりに開催することができた。</p>
事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/> 単年度で終了

外部評価	B	評価委員意見	4年ぶりの開催となったが、運営上の課題等を整理して、継続して取り組んでほしい。
------	---	--------	---

平成27年度事業 評価シート

(課名) 社会教育課

社会教育の基本方針	学校・家庭・地域がつながる生涯学習の推進と学習成果活用の促進		
努力点	生涯スポーツを推進します		
事業名	少年スポーツ教室事業		
区分	<input type="checkbox"/> 単年度	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	実施根拠 <input checked="" type="checkbox"/> 法令等 <input type="checkbox"/> 単独
事業の目的	町内各スポーツ少年団と連携し、団の活性化や団員・指導者の技術向上、また、子どもたちが高い技術に接することにより、夢や希望を感じ、将来に亘ってスポーツを続ける気持ちを支援する。		
事業の内容	年度ごとに実施する競技を定め、プロ選手等の優れた技術指導講師を招待して、スポーツ少年団の活性化と子どもたちの技術向上を図るためのスポーツ教室を開催する。 平成27年度は、プロバスケットボールクラブチームの選手を招き、少年バスケットボール教室を開催する。		
事業の対象	スポーツ少年団員、指導者及びその競技に興味がある児童		
年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費(決算額)	150 千円	170 千円	200 千円
決算額に占める特定財源額	- 千円	- 千円	- 千円
事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)		
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分寄与する	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね寄与する	<input type="checkbox"/> あまり寄与していない <input type="checkbox"/> できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
内部評価	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)		
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない
	B	S 目標を上回る C 目標をやや下回る	A 目標どおり D 目標を大幅に下まわる

判定説明考察	<p>平成25年度から始まった県のスポーツ少年団活性化事業を活用して、昨年に続きプロバスケットボールクラブチーム「広島ドラゴンフライズ」の選手を招いて少年バスケットボール教室を開催した。教室には、スポーツ少年団員39名と公募したバスケットボールに関心がある小学生17名と平生中バスケットボール部37名が参加した。</p> <p>教室では、子どもたちはトップ選手のテクニックや練習方法を教わり、交流を深めた。</p>
事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ、継続する <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/> 単年度で終了

外部評価	B	評価委員意見	<p>多くの子どもたちや興味のある大人が参加して楽しめるよう、PRに努め、取組を継続してほしい。</p>
------	---	--------	--